

日本伝熱学会関西支部伝熱技術フォーラム平成27年度第2回例会

「東洋製罐(株)茨木工場の見学とヒートシールについての講演会」 のご報告

日時：平成27年12月10日 木曜日 13:20～16:00

会場：東洋製罐株式会社 茨木工場

(〒567-0879 大阪府茨木市東宇野辺町1-81)

伝熱学会関西支部伝熱技術フォーラムの平成27年度第2回例会を東洋製罐(株)茨木工場にて開催致しました。前半に工場見学会、後半に講演会を開催し、講師の先生も含めて17名の方にご参加頂きました。

東洋製罐(株)は食品用の缶製造における国内トップメーカーであり、今回の工場見学会では板材から缶容器に至るまでの製造工程を見学致しました。はじめに缶製造の概要についての説明があり、金属の板材をそのまま用いる従来型のDI缶に比べて独自開発のTULC缶では予めポリエステルフィルムをコートした板材を用いるため種々の工程が省略できること等の解説がありました。工場内では、板材の打ち抜き、深絞り加工、塗装、缶上部の形状加工や缶表面のエンボス加工、蓋部の製造工程、亀裂の検査工程などを見学しました。缶製造のために想像以上に多数の工程が必要となることに参加者一同の驚きがありました。

また、講演会では、東洋食品工業短期大学の井上 保先生に「レトルト食品製造における熱的操作(ヒートシール技術)」と題して、レトルト食品等で用いられるプラスチックバッグのシール技術について解説頂きました。接着や加熱に関する基礎物理から、内容物の漏出を防ぐために必要とされる接着力、十分な接着力を得るための温度条件、実際の接着時に問題となる現象等について詳しくご説明いただきました。講演会では終了予定時間を超過するほどの非常に活発な質疑応答がなされました。



井上 講師



集合写真